

2021年5月25日 全6頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2021/5/25号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 山口 茜
研究員 和田 恵

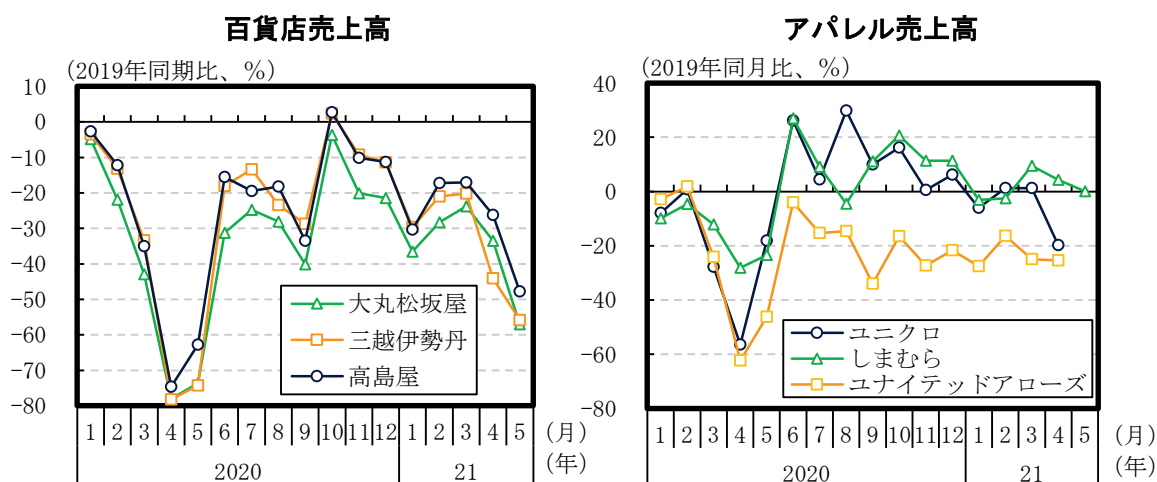
[要約]

- 5月前半の消費は4月から減少したとみられる。財消費は概ね横ばいで推移したものの、緊急事態宣言の影響が全面的に表れたことでサービス消費が落ち込んだ。
- 【小売関連】5月前半の大手家電量販店の売上高は4月平均比+2%程度、スーパーは同+1%程度と増加した。他方、ホームセンターは同▲3%程度と減少した。5月前半の大手百貨店の売上高は、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同期比で5~6割減程度と4月からマイナス幅が拡大した。緊急事態宣言発出に伴う休業要請が重石となった。アパレル（しまむら）の5月既存店売上高伸び率は2019年同月比+0.1%程度と4月から小幅に低下した。
- 【サービス関連】5月前半の新幹線輸送量は、2019年同期比7割減程度と4月からマイナス幅が小幅に拡大した。大型連休中の航空機の輸送量（4月29日~5月5日）は、国内線が同65%減程度、国際線が同95%減程度と4月と同程度であった。小売店・娯楽施設の人出を見ると、5月に入ってから減少傾向が続いており、これに連動する外食・旅行・娯楽関連消費の落ち込みが予想される。

<小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の5月前半の既存店売上高伸び率は、前年の新型コロナウイルス感染拡大の影響を除くため2019年同期比で見ると、5~6割減程度と4月（同3割減程度）からマイナス幅が拡大。緊急事態宣言発出に伴う休業要請等が影響。
- ◆【アパレル】5月のしまむらの既存店売上高伸び率は2019年同月比+0.1%程度と4月から小幅に低下。西日本における例年より早い梅雨入りが影響したと推測。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。2021年5月は16日まで。

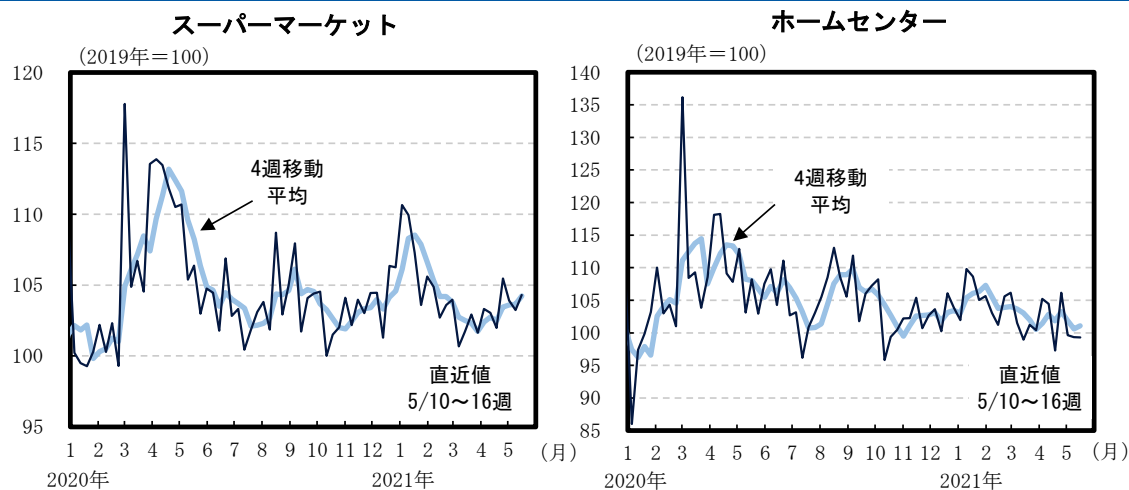
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】5月前半の売上高は4月平均比+1%程度（大和総研による季節調整値）。主力の食品は同+2%程度。
- ◆【ホームセンター】5月前半の売上高は4月平均比▲3%程度（大和総研による季節調整値）。雑貨、化粧品などの売上が減少。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

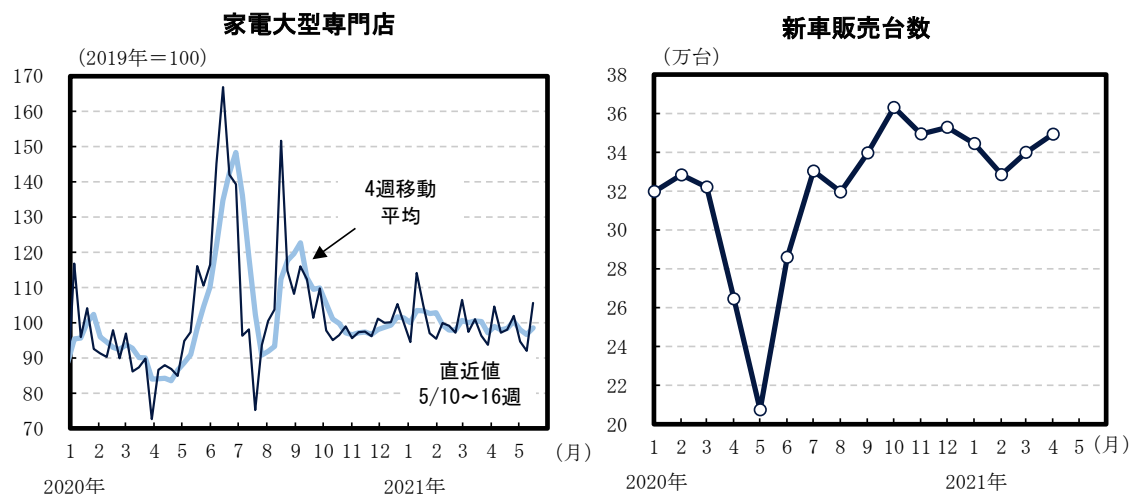


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】5月前半の大手家電量販店の売上高は4月平均比+2%程度（大和総研による季節調整値）。テレビや冷蔵庫の売上が増加した一方、パソコンが減少した。
- ◆【自動車】4月の新車販売台数は3月から9千台増加し、前月比+3%程度（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

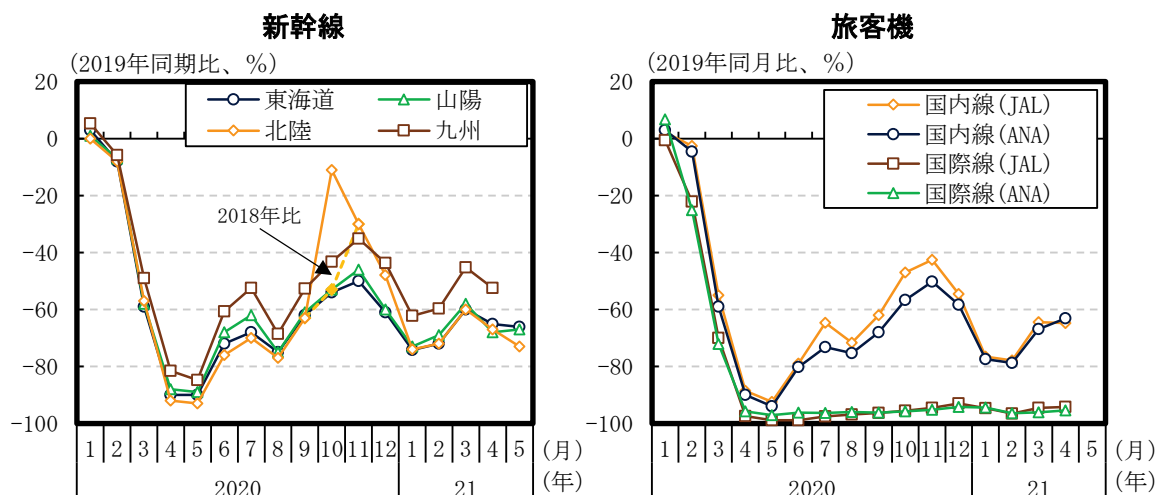
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】5月前半の輸送量は、2019年同期比7割減程度と4月からマイナス幅が小幅に拡大。緊急事態宣言の影響が全面的に出たことが重石に。
- ◆【旅客機】4月の輸送量は、国内線は2019年同月比65%減程度と3月からマイナス幅は小幅に拡大。国際線は同95%減程度と変化なし。大型連休中の航空機の輸送量（4月29日～5月5日）は、国内線が2019年同期比65%減程度、国際線が同95%減程度と4月と同程度であった。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



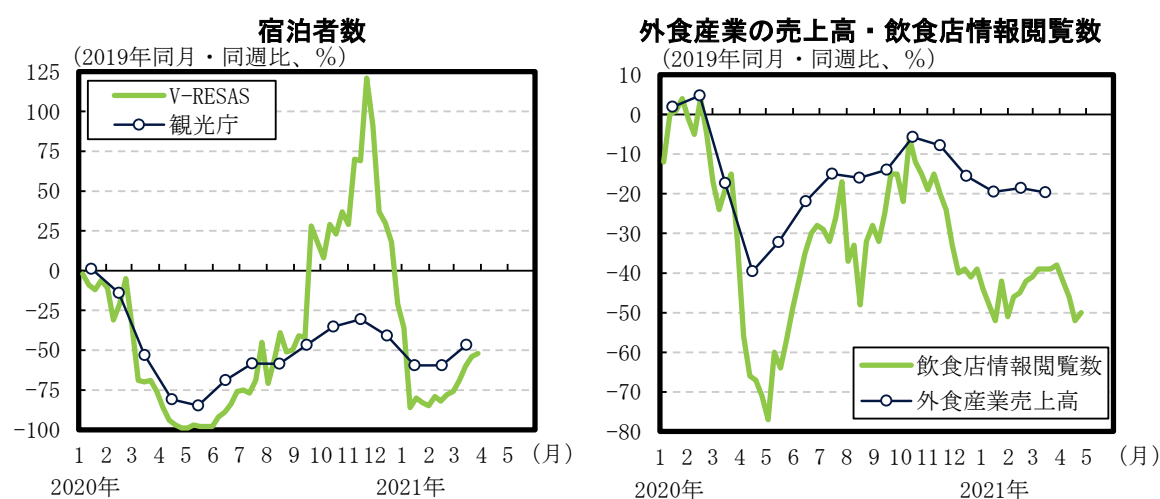
(注1) 新幹線の2021年5月の山陽・九州は14日まで、東海道は17日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】3月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比5割減程度と2月からマイナス幅が小幅に縮小。4月、5月は一部地域を対象とするまん延防止等重点措置や緊急事態宣言の影響でマイナス幅が拡大すると予想。
- ◆【外食】3月売上高伸び率は2019年同月比2割減程度と2月から横ばい。4月は一部地域にまん延防止等重点措置が適用され、下旬からは緊急事態宣言の対象区域で酒類の提供が禁止されたことから、マイナス幅の拡大を見込む。5月は緊急事態宣言の影響が全面的に表れることでマイナス幅がさらに拡大すると予想。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



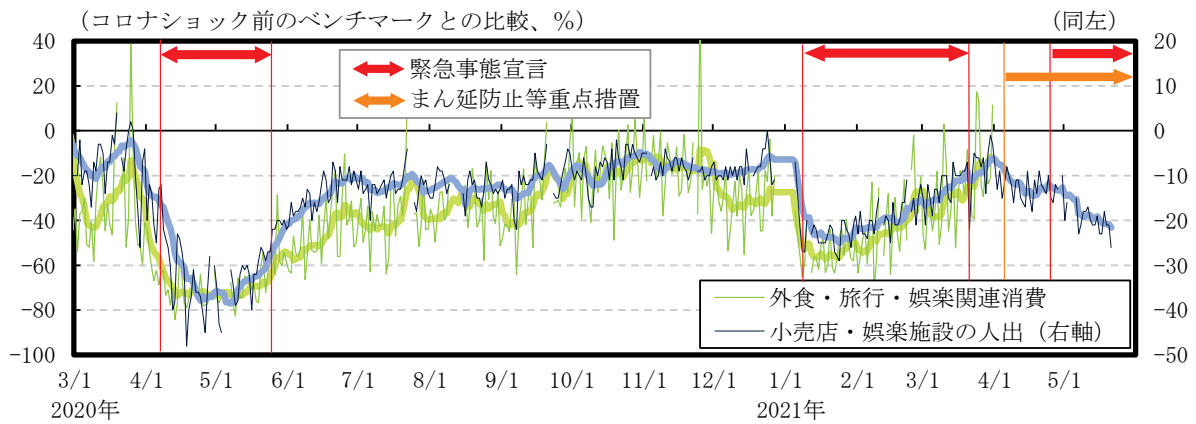
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

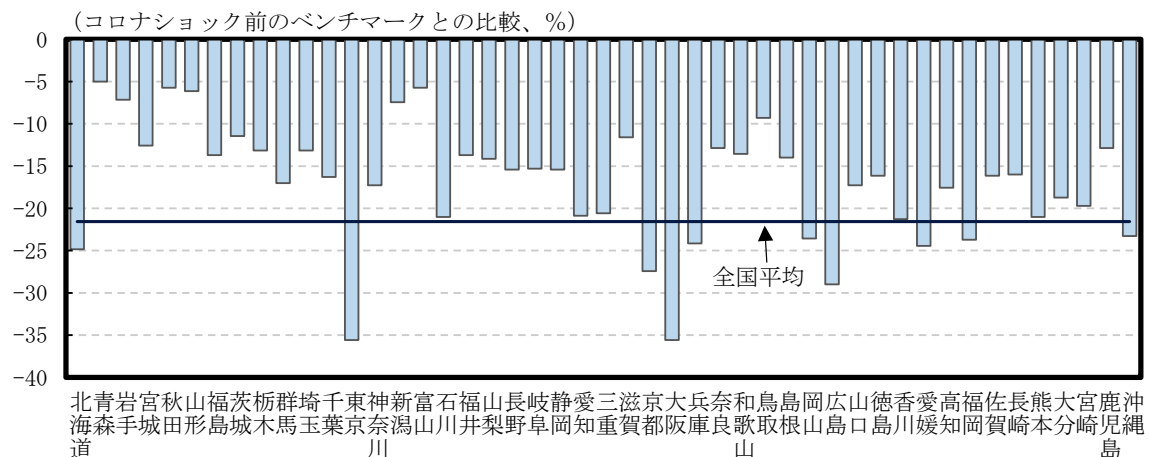
<参考：人出・高速道路交通量>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 5/21）と外食・旅行・娯楽関連消費



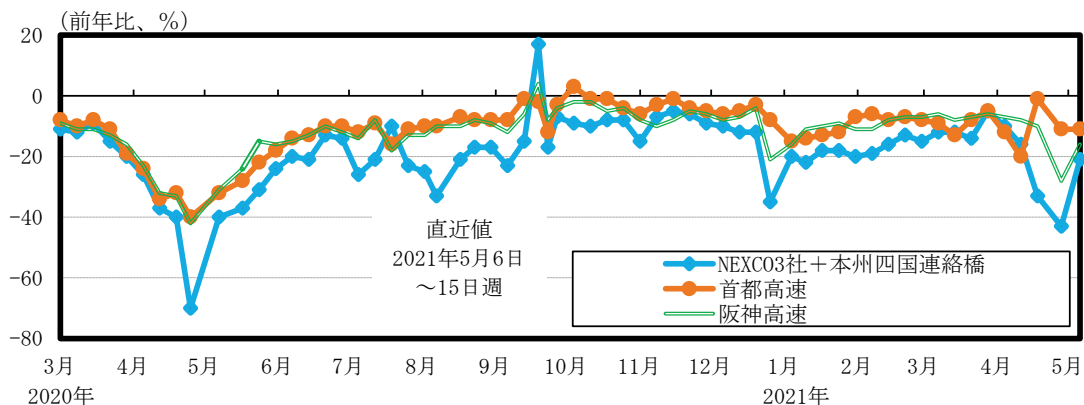
(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。
月～金曜日の祝日とお盆（2020/8/10～14）、年末年始（2020/12/28～2021/1/4）のデータは除いている。
(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出（5/15～5/21 平均、都道府県別）



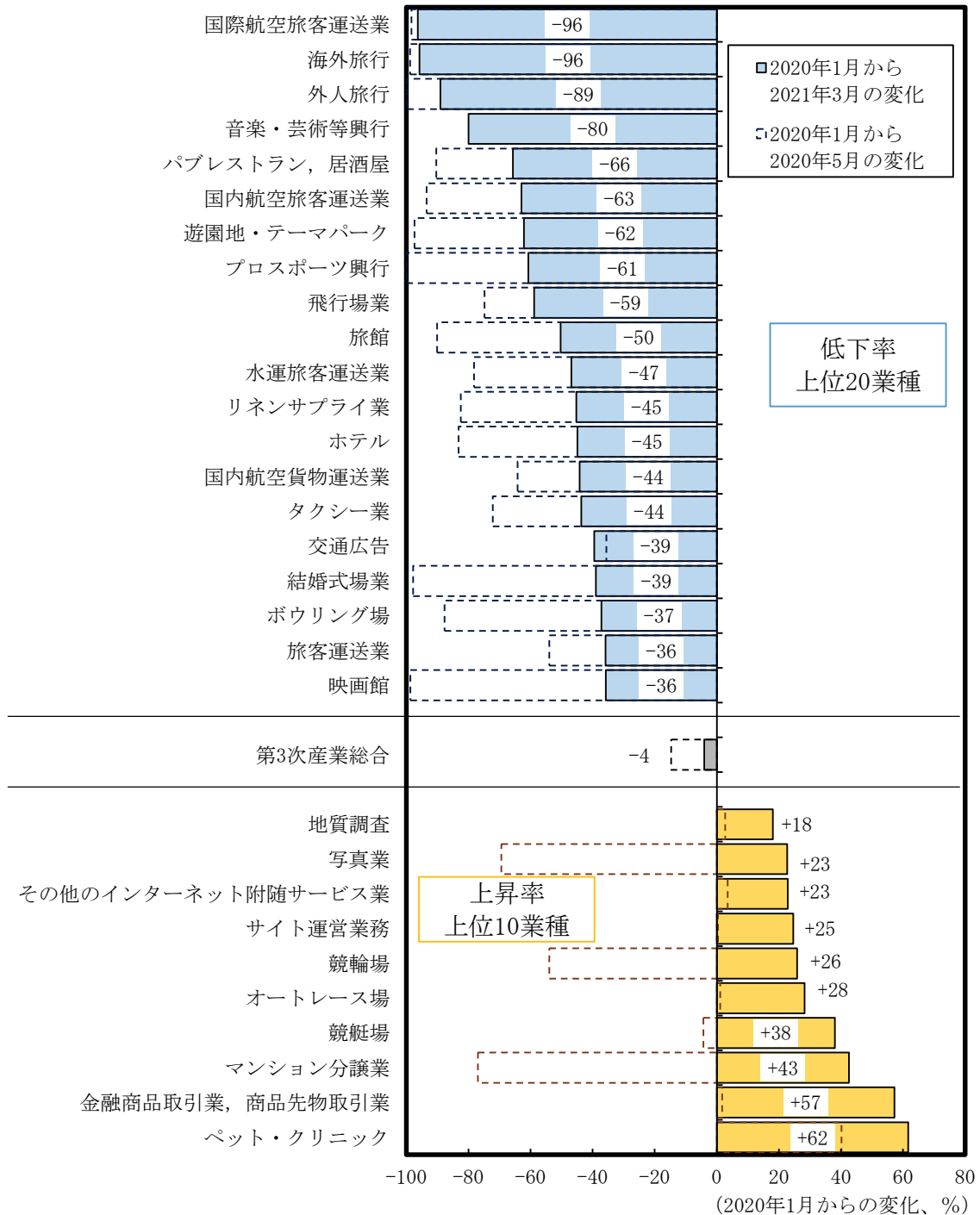
(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。
(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 7：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。
(出所) 国土交通省より大和総研作成

図表8：第3次産業活動指数



(注) 季節調整値。図中の数値は2020年1月から2021年3月の変化率。

(出所) 経済産業省より大和総研作成